

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育原理 The Principles of Nuresery Education		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	必修	(保育士養成課程必修)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教育原理 教育方法論				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育内容総論				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
保坂里絵	授業中に指示します	火・水・金（授業時間は除く）		授業中に指示します
授業の概要				
保育の意義と理念、保育の思想と歴史、保育の制度と機能、保育の内容と方法、そして保育の計画を題材として保育者にとって必要な保育に対する基本的な考え方、見方を学習し、多様な保育ニーズに応えられる保育者を養成するという課題意識にたって、保育全般に理論的に理解を深める。				
授業の目標				
①保育の意義と理念、保育の歴史について基本的な認識を付けることができるようにする。 ②子どものよりよい発達のために、保護者・園・地域・環境と共に保育を創造するための基本的な知識・技術を習得できるようにする。 ③諸外国の保育の現状についても認識を深め、子どもにとって最善の保育を求めようとする基本的な基本的な態度を身に付けることができるようにする。				
授業の方法				
基本的には、講義形式で行う。「調べる、考える学習」を重視した授業の展開を図り、レポートの提出を求める。				
学習の成果（学習成果）				
保育の意義と理念、保育の歴史を踏まえて、現代日本の保育の今日的課題とその改善への方向性を探求することができる。子どものよりよい発達のために、保護者・園と共に地域・環境を考慮して保育を創造するための理念・技術を習得し適切な保育実践ができる。諸外国の保育の現状と課題に立ち、グローバルな視点を持って21世紀の子どもにとって最善の保育を追求し提案することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 授業の概要と進め方について 受講に関する注意点について			
第2回目	保育とは何か 保育の概念・理念			
第3回目	保育の場と役割			
第4回目	保育のための幼児理解			
第5回目	保育の方法と形態			
第6回目	保育計画とその展開			

第7回目	保育のための評価	
第8回目	園とクラスの経営・管理（1）園の経営・管理	
第9回目	園とクラスの経営・管理（2）クラスの経営・管理	
第10回目	保育者論	
第11回目	幼児教育の歴史と現状	
第12回目	保育のニーズ 乳幼児の社会的課題 長時間保育の是非について 障害児保育について	
第13回目	諸外国における保育の現状と課題	
第14回目	保育とは何か。 試験	
第15回目	日本の保育の現状とこれからを考える	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
		評価の基準
授業参加態度	10%	出席や受講する態度、ノートのとまとめ方・授業で使われる教材準備など積極的に取り組んでいる。
レポート	30%	課題に対して探求心を持って取り組み、課題の条件を満たし内容構成もしっかりまとめられている。
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	論述式。授業内容を把握し、質問に対し適切に論じ、自分の考えも示すことができるかを問う。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書 保育原理 ミネルバ書房 参考図書 保育原理 教育出版 保育原理 学文社 「保育所保育指針解説書」厚生省 「幼稚園教育要領解説」文部科学省		
履修上の留意点・ルール		
目的意識をもって意欲的に授業に臨み、私語を慎むこと。季節や気温の状況以外は、飲食物の持ち込みを禁止する。		